

【農山漁村振興交付金】

地域活性化対策 活動計画策定事業 プロセス事例集



まゆ細工体験（岩手県北上市）



A I 鮮度判定された
霞ヶ浦シラウオ（茨城県行方市）



i i ネイチャー春日平
（長野県飯島町）



コミュニティカフェ（富山県魚津市）



マリンアクティビティの実証
（三重県南伊勢町）



ウォークラリーイベント
（京都府京丹後市）



里山体験学習（広島県安芸高田市）



小呂島の魚祭り（福岡県福岡市）

令和7年3月
農林水産省

趣 旨

農山漁村においては、人口の減少・高齢化、社会インフラの老朽化等に伴い、地域コミュニティの活力低下や地域経済の低迷が深刻化しており、農業生産活動を主体として育まれてきた地域社会を維持することが困難になりつつあります。

このような中、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源を活用し、農林漁業者のみならず、地元企業等も含めた多様な主体の参画の下で付加価値の創出を図ることにより、就業の場の確保や所得の向上等を実現し、農山漁村の自立、維持発展を図っていくことが重要です。

このため、農林水産省では「農山漁村振興交付金（地域活性化対策）」（令和4年度までに採択終了）、「農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策（地域活性化型））」（令和5年度以降実施）により、地域が持つ豊かな地域資源を活用した地域の創意工夫による取組に係る活動計画づくり等を支援しています。

令和5年度に事業が完了した地区の中には、地域コミュニティの場づくりやデジタル技術の導入、自然環境の再整備、地域固有の産業をいかした6次産業化等の取組が含まれます。

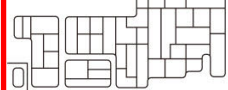
こうした取組の内容、効果等をプロセス事例集としてとりまとめましたので、今後、各地域が抱えている課題の解決に向けた取組の参考としていただければ幸いです。

お問合せ先

農村振興局農村政策部都市農村交流課
電話：03-3502-8111（内線5451）

目 次

番号	事業実施主体名	取組の概要
1	更木活性化協議会 (岩手県北上市更木地域)	夏まつりや地域の産業である養蚕・繭細工体験を呼びかけ都市住民との交流を図り、空き家を整備して定住促進や空き家を活用したカフェイベントの開催により、住民のコミュニティの場を作った。
2	北限のゆず地域活性化協議会 (岩手県陸前高田市)	北限のゆずを通じた「生産」「開発」「交流」「情報発信」の取組を実施して、地域内外の多様なひとが参画することにより、地域に交流や関係を持つひと、地域参画をするひと、就業の場や収入を得るひとが増えている状態が生み出された。
3	なめがた地域活性化協議会 (茨城県行方市玉造地区)	都市住民の嗜好を取り入れたシラウオのブランディングを実施。AIを活用した鮮度評価システムを構築し、商品鮮度の可視化に成功した。
4	比企丘陵農業遺産推進協議会 (埼玉県比企郡滑川町)	谷津沼農業の多様な価値を整理し、地域住民が自らの地域に誇りを持って生き生きと暮らしていける環境づくりを行う。谷津沼を含め農地や周辺の里山が適切に管理され、多様な生態系が戻り、これらを持続できる仕組みづくりに取り組む。
5	伊那市ICT利活用促進地域協議会 (長野県伊那市)	農地の現地確認にドローンや専用アプリなどのデジタル技術を導入することにより、省力化やデジタル技術の新しい活用法を導入した。
6	飯島流ワーケーション推進協議会 (長野県上伊那郡飯島町)	地域の資源を活かした飯島流のワーケーション・体験プログラムにより、都市部の人との交流を増やし、関係人口の創出、農業の担い手不足、地域活性化に向けた取り組みを行った。
7	経田地区振興協議会 (富山県魚津市経田地区)	スーパーの撤退、地域の経済活動の要であった卸売市場が地区から無くなり、交流の拠点であった福祉センターが廃止となったことで、人口減少と少子高齢化が進行。新たに魅力ある地域資源の掘り起こしと情報発信を行った。
8	佐渡地域世界農業遺産推進協議会 (新潟県佐渡市)	「トキと共生する佐渡の里山」の価値の再認識に向けた交流促進、次世代を意識した都市との交流促進、首都圏の自治体等の連携、子どもから理解できる島農業の取組発信及び、移住による新規就農者の確保に取り組む。
9	宿田曾地域活性化協議会 (三重県会郡南伊勢町宿田曾地区)	高齢化と人口減少によるコミュニティ機能の課題を解消するために、地域の活動計画や活動体制を構築。廃校や海といった地域資源を活用したキャンプやカヤック体験などを事業化し収益体制の強化や交流人口の増加を図った。あわせて高齢者の生活支援を事業化し、持続可能な集落の体制の構築を図った。
10	まるっぽ間人プロジェクト推進協議会 (京都府京丹後市丹後町間人地区)	間人漁港衛生管理型荷捌所等を交流拠点に、オンラインの活用等新しい生活様式に沿った形で交流を促進するとともに、滞在型観光を促進し、にぎわいの収益化（ビジネスモデル）を通して、雇用の創出や若年層の移住定住の推進など、SDGsの視点を持った持続可能な地域づくりを目指した取組を行った。
11	むかつ国で遊ぼう協議会 (山口県長門市向津具地域)	向津具地域の豊かな自然や歴史、文化を活かし、都市住民との交流を通じて地域の魅力を発信し、関係人口の増加や移住促進につなげる活動計画づくりを行い、棚田や漁業文化、楊貴妃伝説などを活用し、向津具ならではの持続可能な暮らしの実現を目指した。
12	三矢の訓え地域協議会 (広島県安芸高田市)	農山村コミュニティの再生に向けて、地域の人材と地域外の人材とが様々な目的で出会い、相互に触発する機会を促す場を作り、そして荒廃しつつある里山整備を通じて地域外の関係人口も増やしてゆく。
13	小呂島しまづくり協議会 (福岡県福岡市西区小呂島)	漁業を基幹産業とする小呂島では、漁獲量の減少、高齢化による漁師の不足、島離れなど厳しい状況。このため、漁業を生かした加工品の開発・製造、販売促進などの新しい産業を立ち上げ。それにより所得の向上及び雇用の増大による若者の島離れを抑制し、地域の維持・活性化を図った。



夏まつりや地域の産業である養蚕・繭細工体験を呼びかけ都市住民との交流を図り、空き家を整備して定住促進や空き家を活用したカフェイベントの開催により、住民のコミュニティの場を作った。

基本情報

- 所在地：岩手県北上市
- 団体名：更木活性化協議会
（協議会構成員）
更木町振興協議会、株式会社更木ふるさと興社、北上信用金庫、よい仕事おこしネットワーク、北上市地域おこし協力隊、北上市役所
- 実施地域：北上市更木地域
- 主産業：農業
（主要作物等）
米、大豆、さといも、ねぎ、たまねぎ、養蚕、桑

体制図

更木活性化協議会

事務局

更木町振興協議会

（地域計画の作成、事務処理、会計、企画、運営）

（株）更木ふるさと興社

（養蚕体験の実施、事務処理）

北上信用金庫・よい仕事おこしネットワーク

（ネットワークを活かした販路の指導、助言）

地域おこし協力隊

（繭細工体験の実施）

北上市まちづくり部地域づくり課

（地域計画の助言、活動助言）

取組の概要

対策前(課題)

○更木町地域は高齢化率が高く、人口減少が続き、空き家や耕作放棄された農地が増加傾向にある。

○地域産業である養蚕業も、人手不足や後継者難、全国的な養蚕の衰退により、技術継承が難しい状態となっている。

対策後(効果)

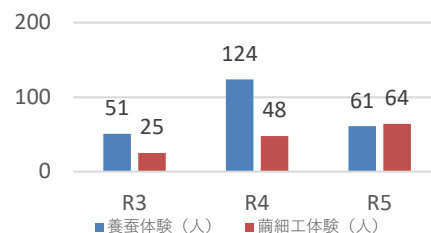
○夏まつりや養蚕・繭細工体験を広く宣伝した結果、地域外からの参加者が多くあり交流人口が増加した。
○交流機会の増加により地域住民のコミュニティが強化された。
○定住促進に向け空き家を整備した。

○夏まつりや養蚕・繭細工体験により、多くの都市住民が参加した。地域住民が繭関連商品の開発を行い、商品化したものをインターネットなどで販売した。

【活動計画策定事業（R3～R5）で実施した取組】

- ①更木夏まつり。養蚕・繭細工体験。
- ②養蚕・繭細工体験による都市農村交流活動の実施。養蚕技術の継承の検討。
- ③地域住民参加による繭玉を使った特産品の開発・販売。
- ④空き家の活用による取組。

更木町の養蚕体験、繭細工体験の推移



養蚕体験



更木夏まつり



繭細工商品

【事業全体のプロセス】

空き家の増加
耕作放棄地の増加
地域活力の低下

農山漁村振興交付
金地域計画策定事
業の活用

2020年～

きっかけ

○更木地域は高齢化率が高く、人口減少が続いている地域であり、空き家や耕作放棄地が増加している。また、地域産業である養蚕業も人手不足や後継者難、全国的な養蚕の衰退により技術の継承が難しい状態にある。

このため、活動計画策定事業を契機に地域での就業の場の確保や、空き家の整備・管理を進め、地域のコミュニティ形成を通じて、地域内での副業としての養蚕業従事者を確保する。



更木ふるさと興社

2021年～

事業開始 1 年目（取組実績）

- 更木地区の活動計画を策定した。
- 住民や地域外の方々とのワークショップを開催。
- 養蚕体験、繭細工体験を実施し、都市との交流を図った。



繭細工体験

2022年～

事業開始 2 年目（取組実績）

- 更木夏まつりの開催。また、昨年度開催できなかった夏まつりの代替イベントとして更木発見ウォーキングを開催。
- 養蚕体験、繭細工体験を実施し、都市との交流を図った。
- 空き家を活用しカフェの実施。繭細工商品の開発。
- フェイスブックやホームページ、地域情報誌による発信。



更木発見ウォーキング

2023年～

事業開始 3 年目（取組実績）

- 更木夏まつりの開催。養蚕体験、繭細工体験を実施し、都市との交流を図った。
- 地域住民が開発した繭を使った特産品の販売。
- 空き家の活用にも努めカフェの開催や定住者の促進に努めた。
 - ・都市との交流の場への参加人数：1,168人（前年度比114%）
 - ・定住者の世帯数：3戸（前年度比300%）
 - ・地域特産品の開発：3個（前年度比150%）
 - ・SNS等での情報発信：35回（前年度比129%）

今後の
展望

「豊かな自然、歴史文化の継承、活力に満ちた笑顔あふれる更木」

- 自然環境の整備、未利用の土地や空き家を活用する取り組みを進めます。
- 特色ある地域の歴史文化を伝承・記録・発信する取り組みを行います。
- 地域で働くことができる仕組みや環境づくりに取り組みます。
- 住民間のコミュニケーションを円滑にし、多様な暮らしを尊重し合える地域環境をつくれます。